

教職支援室便り（11月号）

令和6年11月8日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教員採用選考試験合格者の声

10月号に続き、「教員採用選考試験合格者の声」を掲載したいと思います。

1次試験までの教職特別講座では、教職に必要な知識をただ得るだけでなく、それに対して自分はどうか、また、実際の学校現場ではそれがどのような形で応用されているのかなど、深く考えることが必要とされていました。そのため、自然と何事も多角的に深く考える力がつきました。この力は2次試験の面接や教育実習、大学の授業など様々な場面で活かされました。また、夏季特別講座の面接演習では、講座に参加する他の学生の面接を観察することで、多様な考え方を知ることができ、また、自分自身を振り返る時間にもなりました。昨年10月からの特別講座を通して、教師の卵としても人としても、かなり成長できたのではないかと思います。講座に参加したことで出会え、励まし合いながら、一緒に成長することができた仲間もたくさんおり、本当に参加して良かったと思います。約1年間、私たちのために多くの時間を割いてくださった、曾我先生には感謝しかありません。ありがとうございました。

教職特別講座に参加していなければ、一次試験の問題の量も面接や集団討論の演習の機会も、私だけでは得ることはできなかったのではないかと思います。また、先生からの助言もたくさんいただき、本当に参加して良かったと感じます。来年の4月からは私の教職人生がスタートします。教師になれたことをゴールとせず、これからがスタートであり、今まで通りいろいろなことを学び続け、生徒たちの成長を支えていける教師になりたいです。

実際に試験に合格して、一番は嬉しい気持ちが大きかったです。しかし、実際に現場に出て働くことへの不安も大きいし、自分がやっていけるかも心配です。しかし、ずっと教師になりたいという気持ちを持って頑張ってきたので、自分が教師をめざすきっかけとなった先生のように、人に影響を与えることができる教師になれるよう、これから頑張っていきたいと思います。また、今まで一緒に対策などを頑張ってきた仲間たちの合格の報告も自分のことのようにうれしく感じ、互いにアドバイスをしながらやってきたことは、これからもきっとどこかで役に立つと思います。

先生には講座を受け持っていただき、様々な支援を受けることができました。本当にありがとうございました。

「教職特別講座」の新たなスタート

次年度、教員採用選考試験を受験する学生の皆さんを対象に、10月22日（火）、「教職特別講座」のオリエンテーションを行いました。そして現在、「教職特別講座」が始まっています。これから、約1年にわたり様々な演習を重ねていきます。

今回は、16名の受講希望がありました。教職への思いには、まだ個人差があるかもしれません。「本当に先生になりたいのか。」について自問自答して、これから「教職特別講座」の演習に取り組んでほしいと思います。



「教職特別講座」では、教職教養、専門教養などの筆記試験対策とともに、学校教育に関する問題・課題を提示し、それに関する討論を取り入れながら、教職への理解を図っていきます。また、多くの自治体では、一次試験から個人（集団）面接、小論文などの試験が行われていることから、早い段階で、それらの演習にも取り組みます。そして、教員としての資質・能力の向上をめざします。

学生の皆さんには、自己の目標を明確にもち、この「教職特別講座」を有意義なものにしてほしいと思いますが、特に大切な姿勢は「主体性」です。他律的な姿勢では成果は得られません。課題解決に向けて、自分から求めていく意欲、誠実さなどが不可欠です。「教職特別講座」で何を学ぶのか、どのような姿勢で臨むのかについて、しっかりとした考えをもって取り組んでほしいと思います。今回「教職特別講座」に参加する、学生の皆さんの取組に大いに期待しているところです。

学生の皆さんの「教職特別講座」への抱負を、一部紹介します。

幼い頃から、「先生」という肩書を持った大人の姿が、なぜかいつも自分に特別な印象を与えました。自分の不器用な性格から自信が持てず、教師を志すことを周りに話すのを避け、自分に対しても答えを曖昧にしてきましたが、つい先日ようやく教師になることを決めました。ずっと周りからの励ましの言葉で自信をかき集めようとしていましたが、「神様のお告げ」を待つ自信集めにはゴールが無く、自分が自分のタイミングで決めるしかない今更ながら気付いたからです。そのために、全力で努力することも心に決めたつもりです。不得意なことは、人より少し時間をかけて努力することで、カバーできることを今までの経験で学びました。臨機応変な発言が苦手な私にとって、その場で考えて意見を共有する特別講座は、私がこれから行う「努力」の土台になってくれると思いました。いつか私のことを「努力の子」と呼んでくれた先生に、また学校で再会できるよう、一生懸命目の前の事に取り組みます。周りの仲間へポジティブな影響を与えられる人で居続けることを第一の目標とし、この講座を開いて頂いていることへの感謝も忘れず、毎時間を大切にしたいと思います。

私はこの特別講座で、教員採用試験に合格するために必要な知識を、ただ学ぶのではなくその知識をどのように教員になった際に生かしていけるのかを考えたり、受講している学生の人たちと意見を交換し合ったりして、今自分が持っている知識や考えと他の人が持っているものを共有し合うことで、学びを深めていきたいと思っています。この特別講座で教員に求められる資質・能力を知識とともにより深めていきたいと思ひますし、知識以外の個人面接や模擬授業などの演習についても、他の受講生とともに協力し合いながら取り組んでいこうと思ひます。

教職特別講座での今後の取組については、教員採用試験に合格するということが大切ですが、それ以上に教師として求められる知識や能力について、学ぶ重要な機会であるということ意識しながら、取り組みたいと考えています。具体的には、教育法規や教育原理などを覚えて知識として定着させるだけでなく、学校教育の問題・課題に関する議論などで、それらの知識を活かしながら、より具体的に自分の考えを深めていくことが出来るようにしたいです。

自分自身の目標としては、まずは、学校教育に関する様々な知識を知るということを大切にしたいです。毎時間新しい知識をたくさん得ることになると思います。それらは、議論や自学を通して自分のものとして落とし込み、採用試験や教育実習などで実際に活用していけるようにしたいです。またこの講座では、教師になってからも必要となることをたくさん学ぶことになるので、具体的な場面や状況を想像しながら、自分事として日々学んでいければと思っています。

学生の皆さんの「教職特別講座」への抱負については、12月号にも掲載したいと思っています。

教職課程履修者対象座談会の開催



10月1日(火)、1年生から3年生を対象に、教職課程履修者対象座談会が開催されました。この座談会は、教職課程を履修している1年生から3年生の皆さんが、4年生の体験や感想を聞いたり、質問をしたり、助言をもらったりすることで、教職課程への理解を深めるとともに、教職課程履修者同士が、親睦を深めることを目的としています。

当日は、教員採用選考試験等に関する4年生の体験発表が、各グループごとに行われ充実した協議が進められました。

<参加した皆さんの感想>

- モチベーションが高まりました。
- 教職の免許をとるモチベーションに繋がりました。
- 参考になったので、とてもいい時間になりました。
- 留学や採用試験などのテーマで話合いがありましたが、もっと話を聞きたかったです。
- 自分が知りたいことを聞くことができて、とてもよい機会になりました。
- ゼミのことがまったくわからなかったのですが、先輩にたくさんの情報をもらえてよかったです。また、留学の話がたくさん聞けて、意欲が高まりました。
- 参考になるお話を、たくさん聞けてよかったです。

道徳の教科化に思う！（シリーズ90）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。今回は先月号からの続編で、「道徳科における不易的要素を考える～読み物教材に真正面から向き合う道徳科の時間とは～」のテーマをもとに、その2として「教材全体にある事実に真正面から向き合う授業」について述べます。

＜教材全体にある事実に真正面から向き合う授業＞

教科化以降、「問題解決的な学習」として、読み物教材の登場人物が葛藤する場面などを中心に取り上げ、多くの時間を充てる実践事例を見ることがある。具体的には、主に次のA、Bの事例である。

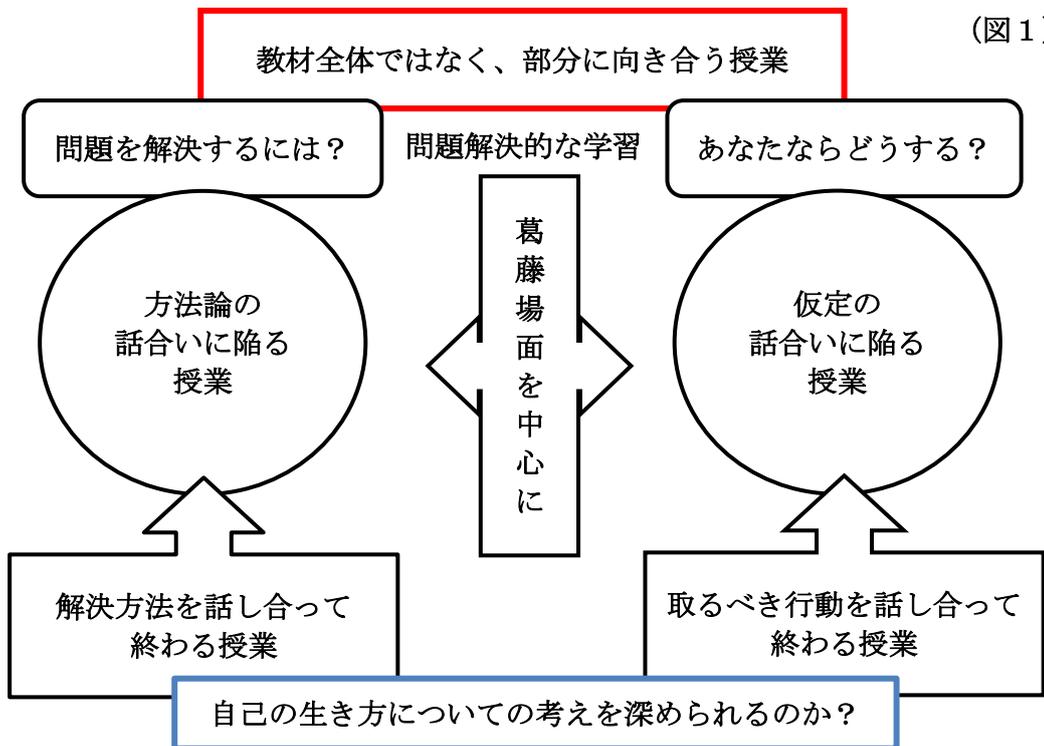
A 「この問題を解決するには、どうしたらよいでしょう。」と投げかけ、解決方法を考えさせるなど、方法論の話合いに陥る授業（主に解決方法を話し合って終わる授業）

B 「あなたならどうしますか。」と投げかけ、登場人物の状況に立たせるなど、仮定の話合いに陥る授業（事後、主に取るべき行動などを話し合って終わる授業）

登場人物が葛藤する場面などは、あくまでも教材全体の中の部分であり、その前後にある登場人物の心の動き、様々な人間関係、生活環境、時代背景等とも深い関連性をもっていることから、その場面だけを切り取って活用することには疑問が残る。また、葛藤場面やその後の価値実現をした事実に向き合い、そのときの気持ちなどを考えることなく、児童生徒が自己の生き方についての考えを深められるのだろうか。

読み物教材の作者には、それを通して伝えたいことがあり、そこには道徳授業の「ねらい」が存在する。教師は、その真意を理解して授業化する力、教材の部分ではなく全体にある事実に、真正面から向き合い分析する力が求められると考える。

「読み物教材に真正面から向き合う」授業とは、「作者の真意を理解し、教材の部分ではなく、全体にある事実に、真正面から向き合う」授業である。（図1、図2参照）



(図2)

